

ワークショップ1 「国債」

地域銀行における証券投資の決定要因

森 祐司（早稲田大学大学院）

近年、地域銀行にとって証券投資の重要性が増してきている。地域銀行が証券投資にあたって、どの程度リスクを受け容れて投資するのか（リスクテイク）を各行のバリュエーション・アット・リスクを推計し、それに影響を与える様々な要因について分析した。1990年代と2000年代の両方で、地域銀行の証券投資のリスクテイクにはその経営状態のほか経営地盤である地域経済環境や競争条件が有意であることが確認された。すなわち、自己資本比率や総資産規模が大きいほど、中小企業向け貸出比率や貸出シェアが低いほど、地域銀行は証券投資でのリスクテイクが大きくなることが確認された。また、1990年代と2000年代でリスクテイクにもたらす要因に変化があることも観察された。1990年代では流動性預金比率が低いほど、また地域銀行のデリバティブ取引が大きいほど、証券投資でのリスクテイクが大きくなる一方、2000年代では、流動性預金比率が高いほど、またデリバティブ取引が小さいほど、証券投資でのリスクテイクが大きくなることが分かった。

このように、地域銀行を取り巻く地域経済環境の変化により、地域銀行の証券投資行動にも変化があることを確認できたのは興味深い。また地域銀行の証券投資全体のリスク量は株式投資比率が下がり、債券投資比率が上昇した2000年代に高くなっていることも窺われ、リスク管理の重要性が益々高まっていることが示唆された。